

1. 開催概要

展覧会名	オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	平成 28 年 4 月 27 日～8 月 22 日	678,639 人 (開会式・内覧会を含む)
<p>●開催概要</p> <p>本展は、オルセー美術館・オランジュリー美術館の所蔵品から、フランス近代絵画の巨匠ルノワールの絵画、彫刻、デッサン、パステル、貴重な資料など 103 点の作品を通じてこの画家の全貌を明らかにしようとする試みであった。</p> <p>本展の構成において何よりもまず特筆されるのは、印象派にはじまり、円熟期を経て最晩年に至るまでのルノワールの各時代の代表作を網羅的に紹介したことである。国家補償制度の適用によって、大型の代表作の数々を出品することが可能となり、過去に日本で開かれたどのルノワール展にも増して、内容の充実を図ることができた。また、《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》および《都会のダンス》《田舎のダンス》の周辺には、時代背景を伝えるために同時代の画家による同主題の作品を回遊的に配置し、広々とした空間を設けて、ダイナミックな展示を実現した。さらに、年表コーナーや生前の映像も展示することで、制作の背景にある画家の人生にも焦点を当て、より深い作品鑑賞の一助となるよう工夫した。</p> <p>こうした充実した出品内容や展示構成の工夫に加えて、日本でも非常によく知られた《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》が初来日する展覧会ということもあり、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、WEB など各種媒体で数多く取り上げられ、この度の「ルノワール展」への期待度の高さが窺えた。</p> <p>会期中の展覧会評として、「幸せの色彩 ルノワールの意志」（6 月 21 日・朝日新聞夕刊、西岡一正）ほか各紙誌において、ルノワールの年表や映像を交えて、「幸福」な絵画を支える「強い意志」が感じられる展覧会として紹介された。一般来場者アンケートでは、「今まで見る事のなかった作品が色々あって見応えのある絵画展でした」「ルノワール展、展示内容、構成共に最高によかったです。特に《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》のあった場所の時代の空気を感じられる構成が楽しかったです。最後の一枚もキュレーターの意志を感じました」「昔から好きだった《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》がこの眼で見られて感動して涙がでました」「大きなスペースをとっている場所があったので、人が分散してとても見やすかった」「子どもも興味深く鑑賞することができました」「Excellent exhibition — Renoir ! (ルノワール展、素晴らしい展覧会!)」「ルノワールの絵に対する気持ちが伝わってきました」「子ども用のルノワールドがあってよかったです。内ようも分かりやすいからよかったです」など、好意的な意見が多く寄せられた。最終的に約 68 万人にのぼる来場者を迎え、広く国民に美術鑑賞の機会を提供することができた。</p>		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

■展示作品の充実

本制度の適用により、印象派の巨匠ルノワールの画業を、その代表作を通じて網羅的に紹介する展示を実現することができた。初来日の《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》をはじめ、《ぶらんこ》、《都会のダンス》と《田舎のダンス》、《ピアノを弾く少女たち》といったルノワールの大作だけでなく、フィンセント・ファン・ゴッホなど同時代の関連作や、パブロ・ピカソやアンリ・マティスといったルノワールが影響を与えた 20 世紀の巨匠たちの作品も紹介することが可能となった。補償制度活用により軽減された経費を作品輸送にかかる経費や借用料の一部に充当した。

■観覧料の無料化・軽減等

通常実施の中学生以下無料に加えて、4 月 30 日(土)－6 月 26 日(日)までの土曜日と日曜日、高校生無料観覧日を 18 日間設け、国民への利益還元を図った。高校生無料観覧日には 1,719 名の高校生が来場した。この数字は高校生入場者数に占める割合としては約 1/4 であり、10 代の若者層に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供することができたと考えられる。また補償制度の利用により、大学生、高校生の入場料金を抑えることができた。

■鑑賞機会の拡大

5 月 3 日(火)、8 月 16 日(火)を臨時開館とし、通常の毎週金曜日に加え、8 月 6 日(土)、13 日(土)、20 日(土)は 20 時までの夜間延長開館を実施し、適正な鑑賞環境の保持に留意しながら、鑑賞機会の提供に努めた。夜間延長開館時の監視・警備人員にかかる経費は軽減された保険料を充当することができた。

■教育普及活動の充実

ジュニア向けの小冊子「ルノワールへようこそ」を作成し、約 9 万部を都内の小中学校に無償提供し、会場にて会期中 3 万部の無料配布を行った。また、講演会やコンサート、レクチャー、ワークショップなど、ルノワールやその時代の魅力を伝える多様なイベントを実施し、計 2,500 名あまりが参加。軽減された保険料を充当できたことで、幅広い来場者層に対し、作品への理解を深める機会を多数設けることができた。

1) 講演会「ルノワールの傑作《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》再考」

日時：4 月 28 日(木) 14 時 00 分～15 時 30 分

講演：シルヴィ・パトリ（本展監修者、前オルセー美術館 絵画部門主任学芸員、バーンズ財団（フィラデルフィア）副館長／ガンド・ファミリー・チーフキュレーター）

会場：国立新美術館 3 階講堂

参加者数：257 人

2) 講演会「ルノワール芸術の魅力」

日時：5月21日（木）14時00分～15時30分

講演：賀川恭子（石橋財団ブリヂストン美術館学芸員）

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：270人

3) コンサート「新倉瞳（チェロ）～ルノワールの美術と音楽～」

日時：6月3日（金）18時00分～19時00分

出演：新倉瞳（チェロ）、塚越慎子（マリンバ）

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：298人

4) 担当研究員による展覧会レクチャー

日時：6月9日（木）14時00分～15時30分

解説：横山由季子（国立新美術館アソシエイトフェロー）

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：268人

5) コンサート「新倉瞳（チェロ）～ルノワールの美術と音楽～」

日時：6月17日（金）18時30分～19時30分

出演：新倉瞳（チェロ）、塚越慎子（マリンバ）

会場：国立新美術館 1階ロビー

参加者数：355人

6) 解説付映画上映会：ジャン・ルノワール「フレンチ・カンカン」

日時：6月18日（土）14時00分～15時30分

解説：岡田秀則（東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員）

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：178人

7) 講演会「服飾史から読み解くルノワール」

日時：6月24日（金）14時00分～15時30分

講演：内村理奈（日本女子大学家政学部被服学科准教授）

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：242人

8) 担当研究員による展覧会レクチャー

日時：7月2日（土）14時00分～15時30分

解説：横山由季子（国立新美術館アソシエイトフェロー）

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：285人

9) 担当研究員による展覧会レクチャー

日時：7月10日（日）14時00分～15時30分

解説：横山由季子（国立新美術館アソシエイトフェロー）

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：240人

10) ワークショップ「舞踏会の折り紙細工」

日時：8月7日（日）11時00分～12時00分、14時00分～15時00分、15時30分～16時30分

講演：COCHAE（コチャエ）

会場：国立新美術館 3階研修室 AB

参加者数：91人

■広報活動の充実

交通広告、紙面での特集を充実させたほか、Instagram など新しい SNS ツールを用い、より幅広い層の国民に本展の周知を行い、優れた美術品を鑑賞する機会を提供することが可能となった。

■インバウンド対策

海外からのお客様向けの対策として、展覧会公式サイトに英語、中国語のページを設け、英・中のチラシも制作しホテルやインフォメーションセンターに配布した。また、音声ガイドを初めて3ヶ国語（日・英・中）で制作し、想定以上の利用数があった。

3. 事故の有無（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

なし

4. 安全配慮に関する特別の対応

- 会期の早い段階で、お客様が滞留しがちな場所にある写真作品を別の場所に移動した。
- 作品保護のために照度を落とした展示室内で、結界に躓く来場者が出たため、結界の高さを高くし、結界のみに照明を当てるといった対策を行った。
- 全作品の結界設置はもちろんのこと、来場者数の増加に対応して、安全確保のために結界の補強や、誘導方法の変更、運営スタッフの増員など柔軟な対応をとり、来場者と作品の安全を確保した。とりわけ、会期末に多くの来場者が集中した《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》の鑑賞空間では、歩きながら見る前列と、立ち止まってみる後列を分けることで、混雑の緩和および作品保全に努めた。
- 展示方法について事前に所蔵館と詳細な打合せを重ね、作品保全・防犯対策を強化した。全ての作品について、盗難防止リング・結界設置のほか、アクリルケースの設置、Tプレートによる額の壁固定を、作品・額の形状に応じて行い、防犯対策を講じた。また、重量のある一部の作品については、通常の展示金具に加えて作品下部を支える受けを設置し、会期中の作品保全に努めた。
- 作品輸送時は、警報装置、中央制御ロック機能および消火器を備えたトラックで、安全面確保に努めた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本制度適用により実現したといえる、《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》の初来日をはじめ、印象派の巨匠ルノワールの代表作を網羅的に紹介することができたことは、国民への優れた美術鑑賞機会の提供、国際文化交流の推進という、制度の趣旨に合致するものであると考える。オルセー美術館・オランジュリー美術館も本制度の趣旨を理解し、制度適用へ向けて協力的であった。

本制度の適用については、展覧会チラシ、ポスター、ホームページ、会場入り口看板での告知に努めた。高校生無料観覧日も、決定後速やかに印刷物・WEBへの記載に努め制度の告知を行った。

無事に展覧会を終了することはできたが、今後も作品と来場者の安全面に配慮した会場構成、会場運営をより一層心がけたい。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

国立新美術館、日本経済新聞社

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	100,420 万円
共催者負担	16,500 万円
収入総額	116,920 万円

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	48,200 万円
設営・運営等会場関係経費	68,720 万円
支出総額	116,920 万円